

# だれもが住みよいまちに

小学校中学年

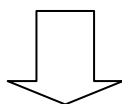
目的 障害のある人や高齢者との交流を通して、障害のある人や高齢者を取り巻く環境について考える。  
相手の立場を考えながら行動することの大切さに気づく。

## 気づく

自分たちの地域には、どんな人が住んでいるだろうか

自分たちの身近で暮らしている人のことを出し合い、いろいろな人がいることを知る。

・障害のある人  
・赤ちゃん  
・高齢者だけで住んでいる人など・・・  
学習したことを模造紙大の校区地図に記入する。

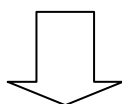


## 広げる

誰もが暮らしやすいようにどんな工夫がされているだろうか  
・・・地域探検をしてみよう・・・

家の中や、通学路・公共の施設・駅などに実際に出かけて行き、見たり、触れたり、たずねたりしてみる。

・スロープ  
・ベンチ  
・障害者用のトイレ  
・エレベーター  
・介護ヘルパーさん  
・近所の人の見守り隊など・・・  
学習したことを校区地図に記入する。

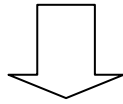


## 深める

自ら体験しよう

車椅子・アイマスク・高齢者グッズ使用等の体験を通じて、気づいたことを出し合う。

介助者の役割も体験する。  
困ったことや怖かったところ、助けてもらってうれしかったことなどをまとめる。  
改善点を出し合う。

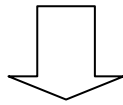


計画する・実践する

## さんや さんをお迎えしよう

身近に住んでおられる障害のある人や高齢者の方に来校していただき、日頃の生活のようすや思い・願いについて聞き取る。  
住みよいまちにするためにどんなことが必要か考える。

お話を聞かせてもらうための「お願いの手紙」を書く。  
改善点をハード面とソフト面に整理する。

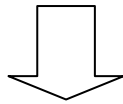


深める・実践する

## 自分たちができることにチャレンジしよう

今回の学習を通じて、住みよいまちにするために自分たちでどんなことができるかを見つけ出す。  
発表し、自分たちができることについては取り組みを進める。

校区地図に自分たちができることを記入する。  
発表の場を設ける。  
・学年学校集会  
・保護者参観日  
・公民館等での（紙面）発表



振り返る

## 取り組んだことを振り返ろう

一定期間を設け、自分たちが取り組んだことや気づいたことを発表する。

【学習を進めるにあたって】

- ・子どもたちと地域に住む障害のある人や高齢者が、協力して生活することの大切さを交流を通じて実感する。
- ・日常的・継続的にかかわりやつながりを広げる取り組みに発展していくことが大切である。